

6	成人の発達	「成人の発達についての研究」 主要大学の男性/大学2年生 /毎年・後隔年/68歳まで	置きすぎていると考え、将来有望と思われる男性が長年にわたって、人生をどう歩むかの図式化の研究デザインで行なった。研究参加者の妻からもデータ収集された。	(大学在学時のみ)、フエローシップ質問票、施設記録、心理テストおよび健康診断を含む様々な方法。参加者の社会的な経歴、知的機能、学術的な成果、パーソナリティ評価、心理的健康、生理学・医学的情報および経歴など。 身体検査が、1969年、1974年、1984年および1989年に行なわれた。1951年、1954年、1967年および1975年に参加者の妻の調査。	66人は1939-1941の卒業生。202人は、1942～1944のクラスの7パーセントのサンプル。 すべて白人男性で社会的経済的に恵まれたグループ。成績は、高校卒業生のトップの5～10パーセント以内。	前に死亡。
5	若者	Harlem Longitudinal Study of Urban Black Youth, 1968 [United States] [ICPSR 121, data not available through ICPSR] http://www.radcliffe.edu/	26年間の追跡調査。 アフリカ系アメリカ人の若者の身体的、心理的、社会的な健康をたどる。 都市部のアフリカ系アメリカ人思春期青少年の代表的なコミュニティ-サンプリングの、健康、身体的、心理的、社会的側面に関する収集。 アフリカ系アメリカ人の思春期青少年の健康状態の変化の方向や状況を把握する。最も変化しやすい健康上の問題を指摘する。アフリカ系アメリカ人思春期青少年の間での、薬物利用のはじまり方や頻度を調べる。家族背景の特徴、役割獲得、社会的影響、薬物利用についての社会心理的態度などの、解決に導く可能な変数の影響を評価する。 薬物の健康、成長、発達などへの影響の及ぼし方を検討。	他の健康の事項と共に、追跡調査では薬物使用やHIVに関する知識・意識・行動について調べた。 1983-1984は医療用でない薬物使用のパターンおよび健康への影響を強調。 1989-1990は、HIV関連の問題、その存在についての知識、HIVに感染した人々に対する態度および危険行動を含む、HIVに関連する問題へ焦点。 最終の2波には、血液サンプルも含まれた。 MH健康(身体的、精神一身的、情緒的、自分への態度、希望、期待、実際の教育の達成)、医療外の薬物使用のパターン、HIV関連の問題。	1968年：668人 12-17歳(男性351人女性317人) 1994年：347人 35-41歳 (ハーバード大学、ラドクリフ研究所のムレイ研究センターにデータが保存されている。)	
7	健康	Harlem Longitudinal Study of Urban Black Youth (ds845) 「都市部のブラックの若者：ハーレム追跡調査」 ハーレム地域/12-18歳/26年間・5回				
5	死別	Harvard Bereavement Study (ds636) 1965-1969年	配偶者の死後およそ3週間目、8週間目、13か月目、2～4年目にインタビュー。死別の精神的外傷、役割への適応、対処の方法、回復プロセスについての情報を集	配偶者が1965-1966年に死亡した(殺人あるいは自殺は除く)45歳以下のボストン在住の男女。	1103名少なくとも1度インタビューを受けた参加者は、女性48人男性20人が	
8						

<p>「死別に関する研究(ハーバード)」 ボストン/死別した45歳以下の男女/4年間・4回</p>	<p>を妨げるあるいは促す、社会的または心理的要因の検討</p>	<p>める。 死の状況の詳細、本人および他の人々の反応、続いて起こった問題の管理、金銭的状況、社会生活、宗教、家庭生活および将来の計画など。健康についての質問票。</p>	<p>長期参加者のうち、24%はアフリカ系アメリカ人。58%はカトリック。</p>	<p>最初の3つのインタビュー完了。女性37人および男性14人が1969年にフォローアップインタビュー。</p>
<p>Health and Retirement Study (HRS) [ICPSR 6854] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06854.xml</p>	<p>アメリカの高齢者の生活についての全国調査。</p>	<p>身体的・認知的機能、退職の予定、家族構成、人口学的属性、住宅、就業状況、収入、健康保険、障害、年金プラン、職歴、意識、選好、将来の期待など。</p>	<p>1992年の基本サンプルは、1931-41年生まれの人とその配偶者。元祖HRSは69336世帯のスクリーニングに基づき、多段階クラスター確率抽出。</p>	<p>2年おきに電話で追跡。 1波 12521(81.7%)、 2波 11596(89.1%) 3波 11200(86.3%) 4波 10856(84.4%) 5波 10371(81.8%)</p>
<p>退職 http://hrsonline.isr.umich.edu/ 全米/高齢者/2年置き</p>	<p>健康状態・社会生活・行動・ネットワーク・医療サービス健康に関わる行動と人間関係が、身体的・精神的健康状態に与える影響を調査。</p>	<p>1965年：慢性的疾患、健康、社会的関わり、心理的特徴 1974年：関係満足感、育児、運動、就業、幼児期の経験 1994年：飲酒・喫煙行動、社会活動、疾病、日常の活動(服、食事、買い物)、自</p>	<p>1992年のスクリーニングは、1992年のスクリーニングに基づき、1924-1930年生まれの人は、メディケア登録に基づいて抽出(セットで2033ケース。)7600世帯、12600人以上のサンプル。ヒスパニック、アフリカン系、フロリダ住民を多くサンプル。面接調査。</p>	<p>1998年に1924-30年生まれと1942-47年生まれを追加。1942-1947年生まれの「戦争ベビー」のサンプルは、1992年のスクリーニングに基づき、1924-1930年生まれの人は、メディケア登録に基づいて抽出(セットで2033ケース。)7600世帯、12600人以上のサンプル。ヒスパニック、アフリカン系、フロリダ住民を多くサンプル。面接調査。</p>
<p>Health and Ways of Living Study, 1965 Panel: [Alameda County, California] [ICPSR 6688] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06688</p>	<p>健康状態・社会生活・行動・ネットワーク・医療サービス健康に関わる行動と人間関係が、身体的・精神的健康状態に与える影響を調査。</p>	<p>1965年：慢性的疾患、健康、社会的関わり、心理的特徴 1974年：関係満足感、育児、運動、就業、幼児期の経験 1994年：飲酒・喫煙行動、社会活動、疾病、日常の活動(服、食事、買い物)、自</p>	<p>Alameda郡の21歳以上(結婚している場合は16歳以上)の人が住む一般世帯。 層別無作為抽出法</p>	<p>1965年 6246/6928人 1974年 4864/6246人 1994年 2729人 1995年 2569人</p>

<p>xml Alameda County [California] Health and Ways of Living Study 1965, 1974 [ICPSR 6838] 1994, 1995 [ICPSR 3083] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06838. xml http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03083. xml カリフォルニア州・アラミダ郡 / 21 歳以上 / 9 年後 / 29 年後 / 30 年後</p>	<p>高校 2 年生と 4 年生がその後 高等教育機関、職場へと移っていく活動を記述。 1980 年から 1992 年について、学生の調査のみでなく、親、教員、高校の成績データ、生徒の奨学金記録、大学成績記録が含まれる。このデータは、第 1 波目の「高校とそれ以降」調査を含む。1972 年卒業生の追跡調査と共通の項目が多い。 (National Center for Education Statistics に委託され、NORC が実施)</p>	<p>由時間の使い方、社会的、レクリエーション、宗教的、環境関連の団体での活動、自由時間の使用 1995 年：自己ケア機能の変化、就業、地域活動への参加、友人家族への訪問、自由時間の使用</p>	<p>8 つのデータからなる。 学校データ：高校の校長による、学校の特徴やプログラムについて。学生データ：調査データ (家庭、宗教、自己や他者の認識、価値観、課外活動、高校でのプログラムの種類、教育上の目標と期待。語彙、読解力、計算力、科学、文章表現、社会科、空間認知、視覚認知についてのテストも含む。 親データ：抽出された 4 年生と 2 年生から、さらに抽出し、2 年生の親 3367 人、4 年生の親 3197 人を調査。収入、負債、資産。高等教育の教育費の出所、親としての教育の目標、奨学金のあて、子どもの高校後の予定、結婚や出産の期待年齢、教育費の見込み、政府の奨学金制度について。世帯規模、住宅の支払い、年齢、婚姻状況、就業状況、収入、子どもにかかる費用。言語データ。英語以外の言葉の経験、現在の接触や使用状況。 教員データ：18291 人の 2 年生と 4 年生の教員 14103 人、616 の学校から。一人の学生は、1979-1980 年に教えた平均 4 人の</p>	<p>学校、学生の層化 2 段抽出。自記式の調査票、対面と電話調査、郵送回収調査票等を利用。 1980 年春、高校 1,015 校の 58,270 人の高校生 (4 年生 28,240 人、2 年生 30,030 人)。 *教員コメントデータ：4 年生 67,053 のコメント、2 年生 76,560 の記録。教員の意見 (学生が大学に進学すると思うかどうか、人気、勉強に影響を及ぼす身体的心理的ハンディキャップなど。2 年のデータは、先生の性別、人種、担当教科、学生の秩序を保つために使っている時間。ふたごときょうだいデータ：サンブルの中で、双子、三つ子、その他きょうだいである場合。1348 の家族のう</p>
<p>若者・キャリア・家族形成</p>	<p>高校 2 年生と 4 年生がその後 高等教育機関、職場へと移っていく活動を記述。 1980 年から 1992 年について、学生の調査のみでなく、親、教員、高校の成績データ、生徒の奨学金記録、大学成績記録が含まれる。このデータは、第 1 波目の「高校とそれ以降」調査を含む。1972 年卒業生の追跡調査と共通の項目が多い。 (National Center for Education Statistics に委託され、NORC が実施)</p>	<p>由時間の使い方、社会的、レクリエーション、宗教的、環境関連の団体での活動、自由時間の使用 1995 年：自己ケア機能の変化、就業、地域活動への参加、友人家族への訪問、自由時間の使用</p>	<p>8 つのデータからなる。 学校データ：高校の校長による、学校の特徴やプログラムについて。学生データ：調査データ (家庭、宗教、自己や他者の認識、価値観、課外活動、高校でのプログラムの種類、教育上の目標と期待。語彙、読解力、計算力、科学、文章表現、社会科、空間認知、視覚認知についてのテストも含む。 親データ：抽出された 4 年生と 2 年生から、さらに抽出し、2 年生の親 3367 人、4 年生の親 3197 人を調査。収入、負債、資産。高等教育の教育費の出所、親としての教育の目標、奨学金のあて、子どもの高校後の予定、結婚や出産の期待年齢、教育費の見込み、政府の奨学金制度について。世帯規模、住宅の支払い、年齢、婚姻状況、就業状況、収入、子どもにかかる費用。言語データ。英語以外の言葉の経験、現在の接触や使用状況。 教員データ：18291 人の 2 年生と 4 年生の教員 14103 人、616 の学校から。一人の学生は、1979-1980 年に教えた平均 4 人の</p>	<p>学校、学生の層化 2 段抽出。自記式の調査票、対面と電話調査、郵送回収調査票等を利用。 1980 年春、高校 1,015 校の 58,270 人の高校生 (4 年生 28,240 人、2 年生 30,030 人)。 *教員コメントデータ：4 年生 67,053 のコメント、2 年生 76,560 の記録。教員の意見 (学生が大学に進学すると思うかどうか、人気、勉強に影響を及ぼす身体的心理的ハンディキャップなど。2 年のデータは、先生の性別、人種、担当教科、学生の秩序を保つために使っている時間。ふたごときょうだいデータ：サンブルの中で、双子、三つ子、その他きょうだいである場合。1348 の家族のう</p>
<p>6</p>	<p>1</p>			

			教員によって評価されている。*	ち、524 がふたご、810 がその他のきょうだい、14 が両方。友人データ：サンプルの中で、1,2,3人まで順位付けて、選ぶ。	
6	High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort First Follow-up (1982) [ICPSR 8297] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08297.xml		2年生調査は、ベース調査とほぼ同じ内容。4年生調査は、高校卒業後の教育や仕事の経験を重視。教育については、卒業した学校の種類、授業料の工面法、学校以外の資格。労働参加、目標、軍隊経験、経済状況。認知テストは実施せず。年齢、性別、人種等のデータも含む。成績表調査ファイル：個々の学生の成績、プログラム、平均点、順位、いつどの授業をとったか、単位取得、成績を含む。その他、学校情報ファイル、地域労働市場ファイル、学校調査ファイル等もある。	24725の学校から1122の学校がえらばれる。各校から、36の4年生、36の2年生が選ばれる(1980の説明では、18人となっている)。元2年生全員と元4年生のサンプルを追跡。元2年について、退学や転校していた場合、補足質問票を行う。閉鎖した学校の場合は追跡していない。	元2年追跡 29737,元4年追跡 11995, 2年成績データ 15941
2	「高校とそれ以降の生活、1980年：第1回目追跡調査(1982)」		1984: 元2年の2回目追跡：基本的属性、教育や他のトレーニング、軍隊経験、就業経験、失業期間、仕事経験、家族について、収入、経験、意識など。また、行った学校の種類、授業準備に使う時間、学位、資格、満たした条件など。金銭面での情報については、授業料等、奨学金、親からの援助(きょうだいへのものも含む)、職業、職種、初任給、総収入、週労働時間、仕事満足度、家族についての情報(配偶者の仕事、教育、結婚年、子ども数)。		
6	High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort Second Follow-up (1984) [ICPSR 8443] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/08443.xml	ほとんどが高校を出て、高等教育機関、就職、求職している。比較可能にするため、多くの質問を同様とした。基礎データの更新。イベント履歴形式で、職歴、通った学校、失業、結婚などをたずねる。	1984の春と夏に調査。1982と同じ方法。1986春と夏以前と同じ方法。		1984: 元2年の2回目追跡 14825 1984: 元4年の2回目追跡: 11995 1984: 元4年の成績データ: 7776、学校運営者と教員 402。職業訓練学校カウンセラー-324、ガイダンスの教員等 400、ガイダンスの長と教員 10370、1980年時点での学校数 537
3	「高校とそれ以降の生活、1980年：第2回目追跡調査(1984)」 High School and Beyond, 1980: Sophomore and Senior Cohort Third Follow-up (1986) 「高校とそれ以降の生活、1980年：第3回目追跡調査(1986)」 High school and beyond:	追加項目は、大学院進学の意向、飲酒習慣。成績ファイルは、関連のある学校から集めており、履修履歴、プログラム、在学期間、専攻、資格を含む。 (United States Department of Education. Center for Education Statistics)	1984: 元4年の2回目追跡: 第1回目追跡の内容を含む。追加項目は、基本情報の更新、高等教育、就業経験、軍隊経験、家族、収入、人生の目標。また、コンピューターライタシー、高校以降の教育での親からの金銭的援助の詳細、学校以外のトレー		1986: 元4年生は 11995, 元2年生は 14825

6	高校から大学へ	http://nces.ed.gov/surveys/hsb/ High School to College Transition Study (ds15) 1970年 「高校から大学への過渡期研究」	大学での経験が期待と行動に及ぼす影響を特定する。	ニング、失業の期間。成績表のデータ、学校の情報も更新。 調査項目：家族背景、高校での経験、日々の活動、学問的関心、キャリア・プラン、自己についての知覚、期待、大学生生活の計画、さまざまな社会的・政治的問題への態度（たとえば人種統合、性役割、性行動、犯罪コントロールなど）。 性行為およびセックスに対する態度に関するいくつかのスケールが2波および3波で加えられた。	1970年にイリノイ大学に入學予定の1,739人の任意のサンプルに、入学前の夏に質問票郵送。 第1波 771人の男性および555人の女性。 第2波 1970秋、学校が始まった直後、。	578人の男性および455人の女性。 第3波 1971春1学年の終わりに、第1波に参加した人々に、大部分は前の2波と同じ情報。(472人の男性、397人の女性および3人の性別無記入)。854人が3波すべてに参加。
6	健康・東南アジア難民	Indochinese Health and Adaptation Research Project, 1982-1984 (ds1086) 「インドシナ人の健康と適応研究プロジェクト」 サンディエゴ/移民/3年間・3年	3年間の追跡調査。 以前の人生上のストレスと、適応を媒介する資源と、適応の結果の変数の間の因果関係を調べる。	カリフォルニア州サンディエゴ郡の東南アジアからの難民739人。サンプルは任意に選択された中華系ベトナム人、Hmong, クメール人、ラオス人、ベトナム人の民族グループからの437世帯からの成人の参加者。25～65歳まで。	739人	
6	結婚関係・健康	Kelly Longitudinal Study (ds431) 1935-1955 「ケリー一長期研究」 婚約中カップル/7年間/20年後	標準化された心理測定を使用。(1935-1938)の時に使用された質問票：教育、職業、収入、きょうだいの中で何番目か、幼年期の家庭生活、身体的・精神的健康、育児、性教育と経験、結婚を成功させるためにどんな要因が重要と思うか。回答者の全般的な健康および特定の健康問題。	1935年と1938年の間に、300組の婚約中カップルが、広範囲な1連の生理学的と心理学的テストを実施。カップルは、その後、結婚、あるいは婚約破棄を研究者に通知することに同意。 フローアアップのデータは最初のコインタクト1954-44年から20年後。成人のパーソナリティの一貫性についての問題に関わりのある若い成人から中年期に設定。	1954-1955のうち、最初の600人の配偶者の512人が第2波に参加。	

高学歴女性の生活	6	<p>高学歴女性のグループの人生パターンに影響を及ぼしている要因を検討する追跡調査。主に女性の人生における仕事の役割に焦点をあてている。</p>	<p>回答者の人生における仕事の役割、教育および職業、家族と仕事の兼ね合いの問題、現在と過去の活動、現在の状況の満足度、家族背景、現在の家庭生活など。 第2波の自記式質問票は、仕事に関する経験、および女性がゴールを表現するこ とができた範囲についての調査が中心。あ らかじめコード化された質問とオープン エンドの両方の質問によって、雇用歴、現 在の仕事のスケジューリング、雇用での性別差 別、教育歴、結婚ステータス、こどもの雇 用などが調査された。</p>	<p>第1波 1961-63年 第2波 1974年 第1波は、1945年から1951年に、文系と理系、その他専門家養成大学院でコンピュータ大学の奨学金を受けたすべての女子学生に調査票を郵送。 第1波(1961年の73人、1963年の238人)の311人の女性が回答。 第2波では、連絡がとれたすべての参加者に送付。有効票226。</p>	<p>第1波 311人の女性 第2波 226人の女性</p>
6	7	<p>Life Styles of Educated Adult Women (ds70) 1961-1974年 「高学歴成人女性のライフスタイル」 コロンビア大学奨学金卒業生 /卒業後10年後/その後約13年後</p>	<p>パーソナリティデータにはBlock's California Q-Sortのバリエーションを用いた。使用された資料は、参加者、その教師あるいはIHDスタッフのすべての提示されたIHDファイルからのすべての提示を含む、各ケータのまとめ。学年、教師からのコメントと評価、IHDスタッフによる社会性またはインタビュー時の行動に関する評価、知能テストの成績、ロールシャッハとTAT、peer sociometric ratings、親とさまざまなことについての本人の報告、さまざまな問題についての態度、好き嫌いなども。Qsort 情報に加えて、成人にはCalifornia Psychological Inventoryも実施された。</p>	<p>参加者が40代(1968-69)の時、サンプルは再び調査された。 パークレー・ガイダンス研究は1929年にJean Macfarlaneによって始まった。研究参加者は誕生21ヶ月のこどものいる家族の5年生のこどもとその家族の、オークランド成長研究は1932年にHarold Johnsonによって開始。両研究ともに、通常の発達を毎年で研究するもので、現在でもIHDで続けられている。</p>	<p>分析に基づく出版あり。 "Lives Through Time" (Berkeley: Bancroft, 1971)。 第4波は、Eichorn、Clausenらによって分析された。Present and Past in Middle Life, edited by Eichorn, Clausen, and others (New York: Academic, 1981)</p>
8	8	<p>Lives Through Time (ds625) 1929, 1932 - 1969 「人生の経過に関する研究」 パークレー/子ども21ヶ月/40代 オークランド/子ども5年生/40代/4回</p>	<p>思春期とその後との関係に焦点をあてた研究 思春期のパーソナリティ発達と変化の軌跡、その後の人生における適応との関係に焦点をあてた研究</p>	<p>1963年に大学新入生として、「ミシガン学生研究：多 大生間の学生の研究」に参加した人の中から、1967年に、200人の女子大学4年生が選ばれた(Gurin, Log# 2)。</p>	<p>1967年 200人 1970年 152人 1981年 117人</p>
9	9	<p>Longitudinal Study of Career Development in College-Educated Women (ds9) 1967-1981年 「大卒女性のキャリア展開長</p>	<p>男性が主流の職業を選択しようとする女性と、女性が多い職業を選ぶ女性の背景、パーソナリティ、大学での経験の特徴を特定するための調査。 質問票の内容： (1)回答者の親の教育と職業的達成および幼年期家庭生活の特性;(2)教員との交流を</p>	<p>1967年に大学新入生として、「ミシガン学生研究：多 大生間の学生の研究」に参加した人の中から、1967年に、200人の女子大学4年生が選ばれた(Gurin, Log# 2)。</p>	<p>1967年 200人 1970年 152人 1981年 117人</p>

<p>ヤリア</p>	<p>期研究」 ミシガン大学4年生／14年 間・3回</p>	<p>含めた大学での経験と課外活動;(3)回答者の興味、態度、信念;4)回答者の将来のライフワークに関する願いおよび期待。 6つの six verbal cues による投影的パーソナリティ・テスト、そのうち4つは達成の必要と、成功の回避の動機のため。 1970年に152人に再コンタクト。 インタビュー・質問票：大卒以来の教育と職業の経験と期待。および現在の家族状況の特徴づけ(既婚、こどもなど)。 1981年に117人のフォローアップ。 4種の投射テスト、キヤリア願望、サポートシステム、仕事・結婚・母親としての役割、について調査。</p>	<p>2年間に3回の調査。ああるいはオプイスで個々にインタビュー：心理的苦痛、生活の多くの様相、職場と家庭での役割について。事前に調査票も記入。インタビューの途中でも調査票記入：精神的・肉体的健康についてのほか、従業員、パートナー、親としてのそれぞれの役割に関する心配事や喜びについて測定。雇用、心理的・身体的健康について。</p>	<p>ポスター発表 フォロワー質問票が1992年11月に郵送され、76%が回答。</p>
<p>70</p>	<p>共働夫妻の長期研究」 ボストン／カップル／2年 間・3回</p>	<p>3つの主な社会的役割(労働者、パートナー、親)における主観的な経験が、共働きカップルのストレスと関連した精神的、身体的健康問題に寄与するところを評価する。ジェンダーの影響も調べる。</p>	<p>ボストン大都市地域の2つのコミュニティの住民リストから300組のカップル無作為抽出。 社会経済的に多様で多くの働く女性を含んでいる町。男性も女性も多くが管理や専門職。 教育のレベルも多様だが、ほとんど大卒。圧倒的に白人が多い。</p>	<p>フォローアップ フォロワー質問票が1992年11月に郵送され、76%が回答。</p>
<p>71</p>	<p>家族関係 ・精神的健康 「世代とメンタルヘルスに関する縦断調査」</p>	<p>高齢の親と彼らの家族についての追跡パネル調査。家族の多世代間の社会的サポートの変化とそれが個人の精神的健康に及ぼす影響。精神的健康が年々ともいかに変化するか。心理的健康、世代内の変化、文化的環境、遺伝的資質が、個人の精神的健康に影響を及ぼすか。</p>	<p>人口分析、社会学の変数、心理学の変数、健康および祖父母(G1)の家族の関係;親(G2);孫(G3);ひ孫(G4)。人口学的、社会的、心理的、健康、家族関係に関する項目により、世代間の絆(主観的を含む)家族内のネットワークが、各世代の年齢、健康による高齢化する世代の健康の悪化による依存、家族構成の変化によって、どう変化していくかをみる。 各家族員の精神的健康がどう変わっていくのか。心理的良好状態、各世代における変化(介護の必要や他の大きな出来事)。</p>	<p>第1波：2,044人、 第2波：1,331人、 第3波：1,483人、 第4波：1,734人、 第5波：1,682人、 第4、5、6波では116人の女性および82人の男性から成る、平均年齢20歳の第4世代(ひ孫)を追加。</p>

	全米／多世代の家族／26年・6回		文化的環境（価値観や指向伝達）、遺伝的なもの（鬱や性格の伝達）などが、個人のメンタルヘルスにどのように影響するかを調べる。		
7 生活 ・ 転 換 期	Longitudinal Study of Transitions in Four Stages of Life (ds169) 1968-1978年 「人生の4つのステージの過渡期に関する長期研究」 大都市／高校3年生・新婚カップル・子育て終了・退職間近の人／18か月、5、7、10年後	4つの過渡期にある異なる段階におかれた成人に関する追跡研究。 ライフコースの変化の理解のために、4つの異なるタイプの変化を経験している人の、対処プロセスおよび、共通性および相違点をさぐる。	属性、社会構造的データ；既往歴；行動；価値観および目的；家族、社会ネットワークおよび社会的認識；人生の評価；心理；インタビューの感想。	(1)最初の就職／大学／結婚を予定している高校3年生； (2)親になる準備をしている若い新婚カップル； (3)子育て終了あるいは「空の巣」が予期される中年の親； (4)年配の退職間近の人。 216人の参加者は、大きな都市の同じ地理的な位置に住み、中流および中下の階層の代表となるように選ばれた。	男性 107人 女性 109人
7 大 学 卒 業 後 の 女 性 の 人 生	Longitudinal Study of the Life Patterns of College-Educated Women (ds7) 1964-1976年 大卒女性のライフパターン長期研究 アメリカ東部女子大卒業生／12年間・3回	アメリカ合衆国東部の有名女子大学の1964年卒業生の追跡研究。 パーソナリティと状況が大卒女性の人生の結果に及ぼす影響を特定することが目的。	244人の大学新入生女子に Thematic Apperception Test(TATs)が実施された、より大規模な1960年の先行研究にならって行なわれている。 卒業以来 大学での経験、卒業以来の活動、将来への希望についての情報。 ストレスのあった人生の期間について集中して質問している。 1974年、76年フォローアップ：オープンエンドの最近の活動についての質問票、最近の生活の変化についての質問票および健康についての質問票など。質問票は、過去2年間の健康と生活の変化に関するあらかじめコード化されたアイテムを含む。	卒業の10年後、1974年に、1964年卒業生の第1回のフォローアップが行なわれた。 オープンエンドとプレコードの質問の両方を含んでいる質問票が、同窓会オフィスから住所を得られた初期のサンプルのすべてのメンバーに送られた (N=210) 対照として男子大学からのサンプル (N=97) に、1974年に同様のライフ・パターン・質問票を実施。 TATも別の女子大学で、1964年卒業の176人の学生から集められた。1976年、女性96名フォローアップ。	210人中122人
7 仕 事 ・ 看 護	Longitudinal Study of the Occupational Stress and Health of Women Licensed Practical Nurses and Licensed	女性の医療関係者、特に看護婦およびソーシャルワーカーの仕事場およびそれ以外の場での生活上のストレスを検	これらの2つの専門グループが選ばれたのは、女性が多い仕事であることと、ストレスの高い仕事であるため。（仕事上の要求の高さと仕事でのコントロールの低さ	第1波：403人の女性（155人の看護婦および248人のソーシャルワーカー）。 1985年から3波で集められ	403人うち371人（92%）が3回のインタビューを完了

<p>7 5</p>	<p>Social Workers (ds763) 1985-86年 「看護師とソーシャルワーカーの職業的ストレスと健康長期研究」 女性医療関係者／2年間・3回 Marion County [Oregon] Youth Study, 1964-1979 [ICPSR 8334] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-UNCAT/08334.xml オレゴン州・マリオン郡／高校2年～30歳まで／12回</p>	<p>討。目標は、仕事上の役割の質、家族の中で役割の占める割合と質との間の関係。そして、精神的・肉体的な健康との間の関係を評価すること。</p> <p>高校時代の問題、成功、非行などが後のキャリアにどのような影響するかを見る。 1964年に、社会サービス部門とオレゴン大学の協力によって高校生の大規模調査がおこなわれた。</p>	<p>によって特徴づけられている。) 調査票とインタビューではうつ病、不安感、主観的な健康、仕事の報酬および心配、身体的な症状および病気について。</p> <p>成長に伴う事柄。家族との関係、学業、進学の前定、異性とのつきあい、飲酒、薬物使用。軍隊、非行、犯罪、ベトナム戦争経験。</p>	<p>た。 各データ収集では、参加者が約2時間インタビューを受け、手渡された、また郵送された質問票の記入を依頼された。</p> <p>1964年に高校2年1277人がベース。1967年にグループ1(309)を無作為で選び、2(303人)は問題を起こしたことのある学生、3(127人)は中退記録のある人に分けられる。警察と関わった人は4番目のグループ(1980年は379人)。</p>	<p>合計1277人。</p>
<p>7 6</p>	<p>Marital Instability Over the Life Course [United States]: A Six-Wave Panel Study, 1980, 1983, 1988, 1992-1994, 1997, 2000 [ICPSR 3812] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03812.xml 全米／55歳以下～／3年後／8年後／12年後／17年後／20年後</p>	<p>ライフコースによって、結婚の安定がどう変化するかをたどる。 (Pennsylvania State University のグループ)</p>	<p>1980年：女性の就労が結婚と結婚の安定に与える影響 1983年：経済資源、妻の就業状況、子どもの有無、結婚満足感、人生の目標、健康などの変化と、結婚解消にむけての行為、解消後の対処、義親との関係、住宅の広さ、親の就業、自由時間の使い方、団体会員、保育状況、家事作業の分担などの関係をみる。 1988年：就業、経済、健康の変化が結婚関係に与える影響をみる。(離婚と再婚、高齢の親や要扶養の子どものケアについてやす労力と資源、資産価値、加齢の認識、精神的健康、既往歴)。 1992年：就業、経済、健康の変化。退職、家族構成、老親と子どもの世話を同時にすることについての調査。成人した子どもが一人の追加で、親からみた親子関係の質、意識との比較、子どものときの経験と大人への移行の関連を調べる。*</p>	<p>アメリカ大陸の全州に在住する結婚している個人が母集団。1980年の時点で、夫婦の両方が55歳以下。 1980年にRRDによって、世帯をサンプリングし、夫婦のどちらかを調査するかを無作為で決定。 1992年と1994年では、1980年の時点でその世帯に住んでおり、1992年あるいは1997年に19歳に達していた子どもにも調査した。 *1997年：成長した子どものサンプルを再度とる。1992年に調査した子どもの再調査。結婚の質と安定性の関係と、それがその後の結婚の質にどう関係するのかを分析。</p>	<p>20回の電話で17%とコンタクトできず。コンタクトできた人の78%が調査を完了。最終的には2033人。 再回収率は、78%, 84%, 89%, 90%。 子どもについては、親の87%が、子どもの連絡先を報告し、そのうち88%が調査に参加した(77%)。対象となる子どもが2人以上の場合、無作為で選んだが、だめだった場合は、もう一方の子どものコンタクトした。5%が抽出された子どもでない回答者が入った。1992年では、子ども471人</p>

7	<p>McBeath Institute Aging Women Project (ds595)</p> <p>「女性の加齢に関する研究」</p> <p>マディソン/50歳以上の女性/1年後(別プロジェクトで14年後)</p>	<p>マディソンのウイスコンシン大学の Faye McBeath Institute on Aging and Adult Life で1977年に開始されたプロジェクト。</p> <p>加齢の学際研究の必要から企画され、老齡女性に影響を与えている問題を研究することに焦点をあてる。</p>	<p>インタビューを受け、自記質問票をいくつか記入。</p> <p>人口学的項目、精神的・身体的な健康、独身に関して、職歴、結婚および家族、住居など、友情、関係中の平等性、サービスの利用、大きな生活の変化、団体組織への所属、政治意識。</p> <p>コーピング能力へのパーソナリティの要因や社会的な絆の強さのかかわりや、高齡女性の全般的な健康 (well being)。</p> <p>変数：属性、精神的・身体的な健康、過去についてどう思うか、生活ストレスとしての冬、老化・死および死んでゆくことの意味、家族への意識および義務、離婚と家族関係、友情、教育や老人プログラムに対する態度。</p>	<p>2000年：健康の項目。1980年に訊ねたものと同じものを含む。成人した子どものパネルも含む。1980年に19-55歳で結婚している人、2000年では39-75歳の人。</p> <p>1978年夏。マディソンの5つの国勢調査地域50歳以上の480人の女性のランダムサンプル。年齢、結婚区分、生活状況、収入および教育の背景を代表する。</p> <p>480人の女性の2分の1は第1のスケジュールに、残りの半分の人が、第2のスケジュールに任意に割り当てられた。</p> <p>第2波は1979年夏。</p> <p>1992年にフォローアップ調査がなされた(Robert, A1009を参照)。</p>	<p>(1997年の追跡では427人)、1997年では220人の子どもが参加。</p> <p>初回参加者の400人(83%)</p>
7	<p>Medicare Current Beneficiary Survey, Access to Care, Calendar Year 1992: [United States] [ICPSR 6332]</p> <p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06332.xml</p>	<p>メディケア受給者調査シリーズ。高齡者と障害者に対する、受給に関連する多目的調査。</p> <p>(United States Department of Health and Human Services, Health Care Financing Administration)</p>	<p>年に3回、何年かに渡り、調査。在宅・施設の入居者を含む。</p> <p>1993：人口学的属性(生年月日、性別、人種、教育、軍経験、婚姻状況)、健康状態と機能、ケアへのアクセス、ケアを受ける場所と満足感、保険適用の状況、経済的資源、家族サポートなどをたずねる。</p>	<p>メディケア登録者から、サンプル。45未満, 45-64, 65-69, 70-74, 75-79, 80-84, and 85以上。85歳以上と64歳以下の障害者をオーバーサンプル。</p> <p>107の1次抽出区から選ばれた。1992年の4回目調査には1991年調査の10388人と新規の1995人が含まれる。1995人はサンプル数を維持するために追加された。</p> <p>1993年7回目データには1-4全てに回答した10936人。1927人が7回目で追加。</p>	<p>12,383</p>
8	<p>「メディケア受給者調査—ケアへのアクセス1992年」</p> <p>Medicare Current Beneficiary Survey, Access to Care, Calendar Year 1993: [United States] [ICPSR 6637]</p>				

	<p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06637.xml</p> <p>「メデイケア受給者調査一ケアへのアクセス 1993 年」</p> <p>全国 / 中高年・高齢者 / 2 年間・計 7 回</p>	<p>11817 人が参加、1046 機関が参加。</p> <p>面接調査と全国保険クレームデータベース。</p>	<p>1990 年秋にミシガン大学に入学した学部生。</p> <p>つぎの調査では、白人学生を、1990 年調査の回答者と、無回答者が 3 対 2 になるように無作為でサンプル。</p> <p>上記式調査および登録データ。</p> <p>1990 秋、1991 冬 1992 冬 1994 冬。</p>	
7	<p>Michigan Student Study: Opinions, Expectations, and Experiences of Undergraduate Students, 1990-1994 [ICPSR 4027]</p> <p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/04027.xml</p> <p>「ミシガン学生調査：学部生の意識、期待、経験 1990-94 年」</p> <p>ミシガン大学入学した学部生 / 4 年間</p>	<p>教員とのやりとりでの良い経験、悪い経験、他の学生との交流、課外活動への参加、学術的・知識面での経験に対する感想、人種やエニシティ背景によってどう経験が違ってくるかに焦点をあてる。</p> <p>キャンパスの人種をめぐる雰囲気、緊張感、学生による大学の多文化や多様性へのコメントメントの評価、大学入学前の考え、大学での経験による影響や変化など。</p>	<p>人種やエニシティの多様性に関して、ミシガン大学の学生の知識面での反応（考え方の規定要因を調べる。</p> <p>マイノリティ（アジア系、ラテン系、ヒスパニック、アフリカ系、ネイティブアメリカンなど）に対する態度や、彼ら自身の経験のみではなく、多様化が、白人学生を含む大学での知識を得る経験をどう影響しているかをさぐる。大学入学時から卒業までの間、どのような変化をたどるのを見る。</p>	
9	<p>Midlife Development in the United States (MIDUS): Boston Study of Management Processes, 1995-1997 [ICPSR 3596]</p> <p>http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03596.xml</p> <p>「アメリカの中年期における発達：生活管理の研究」</p> <p>ボストン / 25-27 歳 / 6 ヶ月後 / 1 年後</p>	<p>第 2 波：面接調査。50 分の認知検査とその後 40 分の面接。検査では、認知能力の 9 つの能力を測る。WAIS Forward Digit Span, WAIS Backward Digit Span, WAIS Vocabulary, counting backwards test, letter comparison test, dual-task test involving the counting backwards and letter comparison tests, WAIS Digit Symbol, Schaie-Thurston Letter Series, and Raven's Advanced Progressive Matrices.</p> <p>面接は、1 波調査時に揚げた家族、仕事、健康についての重要事項をたずねる。繰り返しの項目も多し。気持ちの上での年齢、何歳くらいにみえるか、合計世帯収入。</p>	<p>確率抽出。英語の話せる 25-75 歳のボストン地域に住む施設に入っていない、世帯に住む成人</p> <p>全国調査の際、ボストン地域だけ意図的にオーバーサンプル。全国調査の 6 ヶ月後に開始し、3 回調査をした。</p> <p>30 分の電話調査と 20 分の郵送調査、90 分の認知テストや写真撮影を含む面接調査、30 分の電話調査。6 ヶ月ごとに実施。</p>	
80	<p>「アメリカの中年期における発達：生活管理の研究」</p> <p>ボストン / 25-27 歳 / 6 ヶ月後 / 1 年後</p>	<p>成人の管理に関する調査。身体的健康、心理的健康、社会での責任を含む、中年期の発達のパターン、予測、結果を調べ、成人が仕事、家庭、健康の生活領域をどのようにマネージしているのかを分析。</p> <p>家庭、仕事、健康について、調査時点での状況、6 ヶ月前の状況、6 ヶ月間の予想をたずねる。</p> <p>第 1 波：家庭、仕事、健康面に就いてすべきことの中で重要だと考えることを 2 つ掲げる。</p>	<p>1990 年秋にミシガン大学に入学した学部生。</p> <p>つぎの調査では、白人学生を、1990 年調査の回答者と、無回答者が 3 対 2 になるように無作為でサンプル。</p> <p>上記式調査および登録データ。</p> <p>1990 秋、1991 冬 1992 冬 1994 冬。</p>	

			<p>最も重要なものについては、締め切りや目標の日程、やらなければならないからやっているのか、やるべきだと思うのか、やりたいからやるのか、自分のため、他の人のため、あるいは両方かをたずねる。6つの課題を重要性によって順序付けをし、時間を家庭、仕事、健康の分野に分けてもらう。郵送調査では、中年期発達調査を使用。健康の面で思い通りになると思う度合い、現在、過去、将来の健康の評価、重い病気の既往歴、身体的健康状態。精神的健康、過去6ヶ月における自分、配偶者等、親、子どもに起きたストレスのかかる事柄、うつ、地域への参加、家庭、仕事、生活満足感。</p> <p>様々な尺度を使用。 Ryff Well-Being Scales, the Eysenck Personality Inventory, the Staudinger and Baltes Wisdom Scale (1995), and the Ways of Coping Scale</p>	<p>Millennium Cohort Study (MCS) 2000年- http://www.esds.ac.uk/longitudinal/access/mcs/ 「ミレニアム世代調査」 イギリス全国/2000-2002年の出生児/9ヶ月～毎年予定</p>
<p>家族、仕事、健康について、一番いいこと悪いことを話してもらおう。どのように生活をマネージしてきたか、一番困難なこととどのように対処してきたか、日々やっけていくために一番助けになったことは。面接の最後に写真をとる。</p> <p>3波: 1波でたずねた重要なことについてたずねる。中年期についての意識(何歳から、いつ終わるか、最も大きな変化、よい点悪い点、中年より若いと思うか、年若いと思っているか、中年期危機 "midlife crisis"を感じた知り合いはいるか、自分自身はどうか、26の領域について何か問題があるか、どの程度の問題があるか、どの程度ストレス、あるいはコントロールできているか、どの程度持っているかなど。5年以上学校から離れた後、学位のとれる教育プログラムに入っただか、現在生涯学習などに参加しているか、勉強することが家族仕事健康に影響しているか。</p>			<p>第1回目: 妊娠と出産の状況、人生のはじめの数ヶ月の重要なことがら、子どもが生まれた家族の社会的背景などをたずねた。回答者は出生児の母親(主たる保育者): エスニシテイ、出生児の父親、ひとり親かどうか、妊娠、つわり、出産、乳児の健康と発達、保育、祖父母や友人からのサポート、親の健康、教育、資格、就業状況と収入、住宅、地域のサービス、子どもを伴うあるいは伴わない時間、他の関心。上記の部分では、乳児の性格や行動、パ</p>	

			<p>ートナーとの関係、以前の関係、家事、過去の妊娠、精神的健康、親密関係・親業・仕事に対する意識。父親（主たる保育者のパートナー）への質問の多くも、回答者のものと共通。</p> <p>夫と妻の現在の教会およびコミュニティ活動、人口学的属性、地理的、経済的情報、配偶者に対する態度と満足感、牧会に関連する、また関連しない社会的義務および活動。</p> <p>第2波は、オーブンエンズの質問で、雇用、家および価値観、およびメンタル・ヘルスなどについて。第3波：査定価値観およびゴール、自分と配偶者の記述、弱点などについて調べた。第4波：夫と妻（N=105）のかかわりかたのパターンを評価した。また、優先事項、フラストレーションおよび教会と家族の問題に関する満足感。</p> <p>第3、第4波参加者のうちの教人はさらに下記標準メジャーを完成した: study of values, Myers-Briggs vocational inventory, Edwards Personal Preference Schedule, and Minnesota Multiphasic Personality Inventory (MMPI).</p> <p>*第1波：13007世帯には、9637世帯と追加でサンプルされたグループ。(主たる回答者のインタビュー) (調査項目については、下記を参照)</p> <p>*第2波：主たる回答者 10007人、配偶者・同居しているパートナー5624人へのインタビュー。(内容ほぼ同じ。)第1波参加者と離別した人については、その相手789人をインタビュー。第1波で13-18歳、789人をインタビュー。第1波で18-23歳の子ども1090人をインタ</p>	<p>エスニックマジョリティの多く住む地域が多くサンプルに入るように設計。</p> <p>調査票のプレテスト、パイロットテスト、修正を4波で行なった後、(1959-1960)70項目の自記式質問票が7,978人の牧師の妻に郵送された(37のプロテスタント教派からの20分の1のクロスセクション)。およそ60%(4,777人の女性)が1961年に質問票を返送した。</p>	<p>第1波:7978人のうち4777人(約60%) 第2波:623人 第3波:夫370人妻411人 第4波:105人</p>
<p>8</p> <p>牧師の妻の意識</p>	<p>Ministers' Wives (ds11) 1959-1963年</p> <p>「牧師の妻の調査」</p> <p>プロテスタント牧師の妻 / 4 回答</p>	<p>神学校に関する関連研究が、1962-1963 (N=110)行なわれた。「神学校研究パイロットプロジェクト」と名づけられたその研究は、ガイダンス・マニユアルの開発のために、神学生とその妻と家族のニーズを定義することを試みた。</p>			
<p>2</p>					
<p>8</p>	<p>NSFH National Survey of Families and Households, 1987-1988; National Survey of Families and Households, 1992-1994 [CPSR 6906] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/CPSR-STUDY/06906.xml</p>	<p>アメリカの家族に関する調査。家族の構造が変化し続ける中、家族構成、家族生活のありかたをみる。</p>			<p>第1波 13007人の主たる回答者。 第2波 10007人の主たる回答者 (合計 23075人分) 第1波の回答者を基準にすると、81.7%回収率。 第3波 4570人 (全て含めて 9,230人) 第3波の回収率 (オリジナル全体の NSFH サンプル全体</p>
<p>3</p>	<p>http://www.ssc.wisc.edu/nsfh</p>				

			<p>ビュー。第1波で5-12歳、第2波で10-17歳の子ども1415人には、内容を少しかえて電話でインタビュー。主たる回答者が死亡あるいは病気でインタビューするの困難な場合は、配偶者あるいはその他の人の代理人インタビュー(802人)。主たる回答者の親1人を無作為で選択し、インタビュー(3348人)。</p> <p>*第3波：第2波での調査の対象となった子どものいる人について、電話調査では、主たる回答者、1波の時の配偶者か同棲パートナー(3波時点で関係が続いているかに関わらず)、2波で実際にインタビューしたかには関わらず、対象となった子ども(18-33歳)。2波で対象となった子ども(18-33歳)は、45歳以上の主たる回答者、その回答者の第1波時点での配偶者・同棲パートナー(第3波時点での関係に関わらず)。</p>	<p>プエトリコ、チカノ)、ひとり親、ステップチルドレン、同棲している人、近年結婚した人は、2倍の確率で抽出されるようにした。</p>	<p>から死亡した人を除いた人数を分母として計算)： 回答者本人第3波調査完了55%(2波回答者に対する66%、2波に無回答だった人に対して22%)病気で回答できない場合を含む代理人による回答と部分的に活用できる調査票を含めると57%(2波回答者に対する68%、2波に無回答だった人に対して23%)</p>
<p>NSFH 調査項目： ●第1波：</p>	<p>家族構成と、家族員の関係(結婚・離別・離婚歴、養育権の取り決め、養育家族の関係。親、子ども、義親との関係の質、経済状況(賃労働による収入、自営の収入、利子等、年金、社会保障制度、公的扶助、養育費、慰謝料など。性別、年齢、婚姻区分)。 主たる回答者：家族構成、経歴、結婚と同棲歴、1人目の配偶者の背景、妊娠出産歴と予定、子どもの行動の問題、子ども育成の困難、子どもの教育達成希望、子どもからの離別、配偶者・パートナーの子どもの問題。 ひとり親の世帯)：子どもを一人選ぶ。一緒にいない親(居住状況、婚姻区分、他の子どもと親の接触、回答者の子どもの親との接触、子どもに関するもめごと、居住、面会権、養育費、慰謝料に関する法的取り決め、養育費の支払い状況。 継子・パートナーの子どものいる場合：子どもを一人選ぶ。子どもと一緒にいない親・パートナー居住状況、子どもとの接触、養育費。 生物学的なつながりのある親が世帯内にいない場合：子どもを一人選ぶ。子どもとの接触、養育費について 19歳未満の同居していない子どもがいる場合：いつまで同居していたか、現在の居住地、他の親について、居住地、婚姻地位、他の子どもにも関するもめ事、居住、面会権、養育費、慰謝料に関する法的取り決め、養育費の支払い状況。 配偶者・パートナーの19歳未満の同居していない子ども：いつまで同居していたか、現在の居住地、他の親について、居住地、婚姻地位、他の子ども、配偶者との接触、子どもに関するもめ事、居住、面会権、養育費、慰謝料に関する法的取り決め、養育費の支払い状況。 子ども、継子で19歳以上同居、あるいは大学在学中で別居：通学状況、子どもの居住状況、子どもの仕事と収入、子どもからの</p>				

生活費等の支払い状況、回答者の子どもにかかるお金。

19歳以上の子どもで、在学中ではないが他でくらしている：子どもの年齢、婚姻、子どもはいるか、親との接触状況。
社会経済的屬性(M484-M506)：人種、宗教とその活動状況、最近の引越、親の職業と教育、回答者の小さいときの生活保護を受けていたか。

教育歴(M507-M521E2)：高等学校卒業の有無、卒業後の教育歴、学位と資格。

兵役歴(M523-M527F)

仕事について(M528-M591C)：職歴、現在の職業、労働時間、収入、副業、仕事のスケジュール、通勤、仕事での職業経験、50歳時での職業。
収入、資産、負債。収入、他の同居親族との経済的關係、親や親族と暮らす回答者、初めて購入した家について、家族間金銭的やりとり、資産と負債、調査員観察。

●第1波：主たる回答者への質問項目：

・世帯内での仕事：9つの家事作業について、回答者、配偶者、他の世帯員がかかる時間。

生活の質：役割遂行、健康状態、社会参加、ソーシャルサポート。幸福感、鬱状態尺度、役割の評価、健康全般、アルコール、薬物関連の問題、身体的精神的機能、世帯外からの支援源、社会活動、団体等への参加状況、世帯外の人へからの助け、成人した子どもからのへの助け。

親と同居することに関する考え：親と同居している回答者について。同居全般の評価、親に支払う金額、将来の居住プラン、親と対立すること、自分が出た場合の生活の変化の予想。

離婚と離別経験(1977年1月以降離別離婚した回答者について)：どちらが言い出したか、相手との現在の関係、過程でのサポート源、離別前の相手の収入、口論や身体的なけんか、デート開始について、相手が離別前に他の人ときつきあっていた状況、現在のつきあひ、離婚による生活の変化。

結婚同様に対する意識：35歳以下の結婚同様していない者に対して：結婚による期待される変化、結婚の時期についての考え、結婚に対する考え、性交渉の頻度、同様に対する考え。

同様関係について(同様している回答者)：結婚の予定、関係の質、役割分担の公平性、一緒に過ごす時間、性交渉の頻度、相手と意見の合わない分野、離別する可能性、同様に対する意識、結婚による期待される変化、結婚の時期、結婚について、結婚の形式、役割分担の公平性、一緒に過ごす時間、性交渉の頻度、相手と意見の合わない分野、性交渉の頻度、相手と意見の合わない分野、離別する可能性。

結婚しているカップルについて(結婚している回答者)：関係の質、結婚式の形式、結婚の公平性、一緒に過ごす時間、性交渉の頻度、相手と意見の合わない分野、意見の対立の場合の対処、身体的けんか、分かれたとしたらの変化、離別する可能性。

出生についての考え(39歳未満の女性、独身の44歳以下の男性、既婚男性で妻が39歳未満の人)：子どもを持つことについての考え16項目。

親業(5歳未満の子どもについて)：子どもと過ごす時間、しつけ、子どもの行動で望むこと、継子を育てること、継親業(5-18歳の子どもが1人以上いる)：子どもとの食事、子どもと過ごす時間、しつけ、回答者の若者のグループへの参加、子どもの行動で望むこと、継子を育てることについて。

成人した子どもが同居していることに関しての感じ方(成人した子どもが同居している世帯について)：同居の状況についての評価、子どもとの食事、子どもと過ごす時間、子どもが出た場合予想される変化、親と意見の不一致の内容、子どもとの楽しいとき、難しいときの頻度、回答者の子どもとの将来の居住地の見通し、身体的けんか。

子どもとの関係(回答者または配偶者に子どもがいる場合)：子どもとの関係の評価
親、親戚等、意識(全員)：母親について、父親について、継父継母について、きょうだいについて、義父母について、意識全般。

●第2波

家族構成：生年月日、婚姻区分、家族構成の詳細、世帯主、配偶者がいない場合の理由。

他にくらす娘息子(回答者と配偶者双方)

子どもの出入り(回答者と配偶者双方)：

ケア：世帯全員の長期的な身体的精神的状況、ケアを必要とする人がいるか、12ヶ月内にケアをしたか、受けたか（同居していない者から）、同居している者から。

親との関係：父母、配偶者の父母、継父母について：生死の別、健康状態、関係、婚姻区分、居住地、接触の頻度。第1波での生死、以来同居したことがあるか、回答者の親について一第1波以来回答者のきょうだいとの同居、施設等への入居経験、全てのおやについて一過去1ヶ月に受けた・した援助、入院、心身の健康、収入。

親との同居：第1波と2波について、同居していなかった時期、同居をやめた日と理由、同居をはじめた日と理由、同居の経験など成人した子どもとの関係：19歳以上の子どもから受けた援助、子どもを援助した経験（過去1ヶ月）きょうだい：数、義兄弟、義姉妹、異母異父きょうだい、物理的距離、接触の頻度

祖父母：子どもにもがいる人全員：孫の数、一番上の子の年齢、下の子の年齢、過去12ヶ月に孫がとまった泊数、12ヶ月での接触頻度、関係の質、6ヶ月以上面倒をみたかどうか。

新しい配偶者について：親の家族の親密さ、父母の教育、人種/民族。第1波調査時での状況。

結婚・同様・デート・死別：1波以降の結婚・離婚・死別の年月日、同棲の開始および解消、結婚した人については相手について、特定の相手がいる場合は結婚・同様・つきあう可能性、死別の場合、死因、病状や必要だったケア、住んだ場所、他の人からの助け、最後の働いた日、配偶者が1波で回答していない場合、その人についての情報。

妊娠出産：50歳未満の女性ならびに50歳未満の妻/パートナーのいる男性：1波以降の妻、養子、現在妊娠しているか、将来の出産予定。

5-17歳の子どもに関する項目（問題があるかをたずね、どの子どもについてもつか尋ねる形式）：育てるのが楽か困難か、長期的な健康、精神的心理的問題、学校をやめたか/3ヶ月以上休んだか、留年したか、警察が関わる問題があったか、無断欠席等があったか、結婚せずに妊娠したか/させたか、1波以来、セラピーにかかったか。

調査対象の5-17歳の子どもに関する項目：健康状態、身長体重、学年、平均成績、運動スポーツ、芸術デザイン、音楽、技術などに長けているか、親が子どもが受けるべきだと考えている教育程度、友人、一対一で活動したか（1週間）、罰、30日で話した頻度（子どもが悩んでいること、子どもがうれしがっていること）、1週間で子どもを抱きしめた回数、お尻をたたいたこと、その影響、家でひとりである機会があったか、回答者と子どもの学校の関わる接触、通っている学校、回答者の学校とのかかわり合い、テレビについて、家の手伝いと小遣い、その他の収入、子どもの稼ぐお金のうちの貯金の割合、運転免許、車所有の有無とアクセス、デートの状況、目に見える意見の不一致、関係の質、回答者の親と子どもの関係。

調査対象の18-23歳の子どもについて：一緒に過ごす時間、目に見える意見の不一致、けんかになる可能性があるか、避ける話題があるか、関係全般、意見の不一致の際の対処、関係の質、子どもの学校、関係、職業に満足か、子どもと話す度合い、その影響、同居している場合、子どもが部屋代や食費をいれるか、その額、回答者がどのくらい子どもへの出費を負担しているか。

5歳未満の子どもについての項目：育てやすさ育てにくさ、長期的身体的、精神的心理的問題、1波以来精神的な問題でセラピストにかよったか。

新しく調査に加わった対象となる5歳未満の子どもについて：健康、身長体重、幼稚園にはいる準備はどうか、食べべているときの行動、睡眠と食事のパタン、泣いたりすねたりすること、一対一で過ごすかどうか、テレビ、就学前学校について、一日何時間育児にかかわるか、回答者と子どもの関係。

一緒にいる子どもとの親で同居していない人について：回答者の以前の子ども、子どもが生まれたときの状況、現在の結婚同棲は内での子ども、離れている場合はその距離、仕事と収入、子どもとの接触、相手方の祖父母、相手の親の影響、子どもについて話す頻度、もう一方の親に満足か、養育費、面会権と養育費の取り決め。もうひとりの親について：上と同様

居住歴：1波以来住んだ所、引っ越しの詳細など。

宗教：信仰、儀式に出る頻度

教育歴：1波以降の変化、各学校入学の年月日、フルタイムかパートか、学位と年月日、兵役。

職歴：1波以降の変化、変わった場合の年月日、フルかパートか、働いていなかった時、仕事を探していたか、継続している場合労働時間。

現在の仕事：主たる職業、労働時間、雇用主、職業、賃金、在宅勤務、副業、通勤時間とその回数、副業について、時間、季節労働かどうか、自宅勤務

の状況、スケジュール、時間と日、過去52週管で働いた週、失業していた週、この4週間職探しをしたか、前の仕事の賃金、職業、50歳のときと同じ職業か、配偶者の職業。

収入、資産、負債：年収、世帯の16歳以上の人の年収、1987年以来公的扶助をうけたか、親や成人した子がいる場合、彼らから受け取る額、払う額、回答者の払う生活費、お金の貸し借りや贈与、家の購入、支払い状況、親戚や友人からの借金や贈与、生活費や教育費として受け取る援助、回答者が払う援助、相続、家、不動産、自動車、貯金額、投資額、負債とその返済、毎月家賃など。

調査員観察：家の構造、調査中いた人、回答者の理解力、協力度、関心、調査が中断された頻度、相手との信頼関係の状態、調査対象の子どもや親の調査のための連絡先、連絡先、調査日時。

●第2波：自記式の部分：

家事；健康とウェルビーイング；最近の結婚の解消など；未婚で同棲していない人には結婚で予期され変化や現在の交際状況、望む子ども数、労働時間；同棲している人にはその関係の評価、幸福感、家事お金労働の分担の公平感、一緒に過ごす時間、性関係の頻度、意見の対立、別れた場合予期される変化、関係の安定性、望む子ども数と労働時間、結婚の予定、意識全般；結婚している人に、関係の評価、幸福感、家事お金労働の分担の公平感、一緒に過ごす時間、性関係の頻度、意見の対立、別れた場合予期される変化、関係の安定性、望む子ども数と労働時間；対象となった5-17歳の子どもについて、問題や機嫌を計る尺度、教育、仕事、キャリア、お金、結婚、子ども、リーダーになる、近くに住むなど、子どもの達成目標の重要性；調査対象の0-4歳の子どもについて、問題や機嫌の尺度；親である人について、子どもと過ごす時間、重要な決定について話す頻度、子どもの意見のために決めごとを変えざる頻度、家族の記述；5歳未満の子どもの親について、発達に關する尺度；家族に関する意識、社会参加と仕事（全員）一同棲、結婚、結婚の安定性、家族への義務、親業、未婚の親、退職、社会参加、受けた援助与えた援助、医療保険と年金、退職について。

●第2波：親へのインタビュー

世帯の構成、回答者の婚姻区分、年齢、教育、子どもと孫、配偶者がいない場合はその理由、世帯員、子どもとの接触、他でくらす子ども、関係性の総評価。

結婚：結婚した年月、離婚、死別、離別の年月、結婚していない場合結婚の予定。

健康とウェルビーイング：幸福感、家計についての心配の頻度、健康状態全般、結婚幸福感、活動を妨げる身体的精神的状态、うつ状態、アルコール使用、親と子の義務についての考え、社会参加、協会活動。

ケアを受ける・与える：各人の長期的な身体的精神的状态、介護を必要とする人がいたか、回答者が12ヶ月内にケアをしたり受けたりしたか（同居人から・同居していない人から）

親との関係：父母、配偶者の父母、継父母について：生死の別、死亡年、健康状態、関係、婚姻区分、居住地、接触の頻度。第1波での生死、以来同居したことがあるか、回答者の親について一第1波以来回答者のきょうだいとの同居、施設等への入居経験、全てのおやについて一過去1ヶ月に受けた・した援助、入院、心身の健康、収入。

成人したすべての子どもとの関係：19歳以上の子どもから受けた援助、子どもを援助した経験（過去1ヶ月）、長期的な身体的症状、長期的な精神的心理的症状。

きょうだい：数、義兄弟、義姉妹、異母異父きょうだい、物理的距離、接触の頻度

祖父母：子どもに子どもがいる人全員：孫の数、一番上の子の年齢、下の子の年齢、過去12ヶ月に孫がとまった泊数、12ヶ月での接触頻度、関係の質、6ヶ月以上面倒をみたかどうか

現在の仕事：回答者と配偶者について、就労状況、働いていない場合、最後はいつか、通常の労働時間、職業、過去52週で働いた週、失業していた週、

収入、資産、負債：年収、世帯の16歳以上の人の年収、お金の貸し借りや贈与、家の価値、不動産、自動車の価値、貯金額、投資額、負債とその返済、毎月家賃など。

●第2波：10-17歳の調査対象の子ども

・学校：生年月日、学年、過去一年間でものを盗まれたりドラッグをすすめられたりなどのことがあったか、学校の成績、クラブ活動、宗教活動、その他の地域活動に費やす時間、教育達成目標、職業の達成目標。

<p>友人と心理的健康：友人、子どもの友達が家にくる頻度、交際、性行動、自己自尊心、見通し。活動と意識：テレビ、喫煙、飲酒、マリワナ使用、結婚、出産の見通し、生活全般の評価。</p> <p>親ときょうだい：実親と暮らしているか、暮らしていない場合誰と暮らしているか、親と過ごす時間、親が抱きしめたりキスしたりするか、親がどう回答者に影響しようとしているか、批判と賞賛、きょうだい数と関係、家でひとりで過ごすこともあるか、親がふだん子どもが誰とどのように過ごしているか、お金をどうつかっているか、自由になる時間をどう過ごしているかなどを知っているか、回答者である子どもの教育達成の希望、親との関係、親との関係、家族の雰囲気。</p> <p>いない親について：接触、訪問の予定の変更、どう影響があるか、親を尊敬しているか、関係全般。両親と過ごした時間、いない親の賞賛と親との関係全般。</p> <p>生物学的親との関係（どちらの親とも同居していない場合）：父母との接触、父母の賞賛と関係全般。</p> <p>祖父母：生きてるのは誰か、母親側との接触と関係全般、父親側との接触と関係全般。</p> <p>第2波：18-23歳の対象の子ども</p> <p>生活状況と経歴：現在の居住状況、婚姻区分、世帯人の名前、性別、年齢、婚姻区分、回答者との関係、親の経歴—実父母と6ヶ月以上離れたことがあるか、4ヶ月以上一人暮らしをしたか、親と住んでいない場合それはどうか。</p> <p>婚姻歴：結婚回数と年賀び、はじめと現在の配偶者、配偶者との結婚前の同棲の状況。</p> <p>教育：高等学校卒業か、卒業の予定（12ヶ月以内）、予定している教育達成、成績、高校卒業後の教育、成績、学位と資格とその年</p> <p>交際状況：30日間でのデートの回数、過去12ヶ月でつきあっていた人の数、決まった相手がいるか、結婚の予定</p> <p>妊娠出産について：子ども数と各生年月日、誰と住んでいるか、妊娠しているか、子ども欲しいか、初めて子どもをもつとしたらどのくらいうれしいと思うか。</p> <p>母親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響</p> <p>年齢、宗教、経済的事項：生年月日、宗教、就学の費用の出所と額、義務である活動、職歴、現在の仕事、達成目標、配偶者の仕事、回答者と配偶者の12ヶ月の収入、貯金、カード等の負債、他の負債。</p> <p>父親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響、両方の親と一緒に過ごす頻度</p> <p>パートナーとの関係：結婚幸福感、安定性、同棲している人は結婚予定、相手との関係幸福感、安定性。</p> <p>ソーシャルサポート：友達と過ごす余暇時間、何かあった時に相談したりできる人の数（親以外の親戚ふくむ）</p> <p>意識と心理的ウェルビーイング：性役割、親業、離婚、結婚、離業、家族への義務、自尊心、ウェルビーイング全般、学業で達成、キャリア見通し、経済的状况、余暇時間、友達との関係、健康、恋愛、容姿などの満足感、健康全般、身長、体重、鬱尺度、など。</p> <p>性行動と薬物：性行動、健康、飲酒、マリワナ使用、飲酒問題、薬物濫用の人と住んだことはあるか。</p> <p>継父母との関係：同居したことがあるか、接触、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面に対する感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足か、親に話しやすいか、受ける影響。</p> <p>きょうだい、祖父母、調査の詳細：きょうだい数、関係、母方・父方の祖父母との接触や関係、調査日。</p> <p>第3波：主たる回答者と配偶者に対する調査の内容：第2波とほぼ同様。</p>	<p>1958年3月3-9日に生まれた17000人余りの追跡調査。これまで6回の調査。</p> <p>1965 7歳</p> <p>1999-2000年調査では、14902人目録、11419人が回答。</p>
<p>友人と心理的健康：友人、子どもの友達が家にくる頻度、交際、性行動、自己自尊心、見通し。活動と意識：テレビ、喫煙、飲酒、マリワナ使用、結婚、出産の見通し、生活全般の評価。</p> <p>親ときょうだい：実親と暮らしているか、暮らしていない場合誰と暮らしているか、親と過ごす時間、親が抱きしめたりキスしたりするか、親がどう回答者に影響しようとしているか、批判と賞賛、きょうだい数と関係、家でひとりで過ごすこともあるか、親がふだん子どもが誰とどのように過ごしているか、お金をどうつかっているか、自由になる時間をどう過ごしているかなどを知っているか、回答者である子どもの教育達成の希望、親との関係、親との関係、家族の雰囲気。</p> <p>いない親について：接触、訪問の予定の変更、どう影響があるか、親を尊敬しているか、関係全般。両親と過ごした時間、いない親の賞賛と親との関係全般。</p> <p>生物学的親との関係（どちらの親とも同居していない場合）：父母との接触、父母の賞賛と関係全般。</p> <p>祖父母：生きてるのは誰か、母親側との接触と関係全般、父親側との接触と関係全般。</p> <p>第2波：18-23歳の対象の子ども</p> <p>生活状況と経歴：現在の居住状況、婚姻区分、世帯人の名前、性別、年齢、婚姻区分、回答者との関係、親の経歴—実父母と6ヶ月以上離れたことがあるか、4ヶ月以上一人暮らしをしたか、親と住んでいない場合それはどうか。</p> <p>婚姻歴：結婚回数と年賀び、はじめと現在の配偶者、配偶者との結婚前の同棲の状況。</p> <p>教育：高等学校卒業か、卒業の予定（12ヶ月以内）、予定している教育達成、成績、高校卒業後の教育、成績、学位と資格とその年</p> <p>交際状況：30日間でのデートの回数、過去12ヶ月でつきあっていた人の数、決まった相手がいるか、結婚の予定</p> <p>妊娠出産について：子ども数と各生年月日、誰と住んでいるか、妊娠しているか、子ども欲しいか、初めて子どもをもつとしたらどのくらいうれしいと思うか。</p> <p>母親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響</p> <p>年齢、宗教、経済的事項：生年月日、宗教、就学の費用の出所と額、義務である活動、職歴、現在の仕事、達成目標、配偶者の仕事、回答者と配偶者の12ヶ月の収入、貯金、カード等の負債、他の負債。</p> <p>父親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響、両方の親と一緒に過ごす頻度</p> <p>パートナーとの関係：結婚幸福感、安定性、同棲している人は結婚予定、相手との関係幸福感、安定性。</p> <p>ソーシャルサポート：友達と過ごす余暇時間、何かあった時に相談したりできる人の数（親以外の親戚ふくむ）</p> <p>意識と心理的ウェルビーイング：性役割、親業、離婚、結婚、離業、家族への義務、自尊心、ウェルビーイング全般、学業で達成、キャリア見通し、経済的状况、余暇時間、友達との関係、健康、飲酒、マリワナ使用、飲酒問題、薬物濫用の人と住んだことはあるか。</p> <p>性行動と薬物：性行動、健康、飲酒、マリワナ使用、飲酒問題、薬物濫用の人と住んだことはあるか。</p> <p>継父母との関係：同居したことがあるか、接触、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面に対する感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足か、親に話しやすいか、受ける影響。</p> <p>きょうだい、祖父母、調査の詳細：きょうだい数、関係、母方・父方の祖父母との接触や関係、調査日。</p> <p>第3波：主たる回答者と配偶者に対する調査の内容：第2波とほぼ同様。</p>	<p>1958年3月3-9日に生まれた17000人余りの追跡調査。これまで6回の調査。</p> <p>1965 7歳</p> <p>1999-2000年調査では、14902人目録、11419人が回答。</p>
<p>友人と心理的健康：友人、子どもの友達が家にくる頻度、交際、性行動、自己自尊心、見通し。活動と意識：テレビ、喫煙、飲酒、マリワナ使用、結婚、出産の見通し、生活全般の評価。</p> <p>親ときょうだい：実親と暮らしているか、暮らしていない場合誰と暮らしているか、親と過ごす時間、親が抱きしめたりキスしたりするか、親がどう回答者に影響しようとしているか、批判と賞賛、きょうだい数と関係、家でひとりで過ごすこともあるか、親がふだん子どもが誰とどのように過ごしているか、お金をどうつかっているか、自由になる時間をどう過ごしているかなどを知っているか、回答者である子どもの教育達成の希望、親との関係、親との関係、家族の雰囲気。</p> <p>いない親について：接触、訪問の予定の変更、どう影響があるか、親を尊敬しているか、関係全般。両親と過ごした時間、いない親の賞賛と親との関係全般。</p> <p>生物学的親との関係（どちらの親とも同居していない場合）：父母との接触、父母の賞賛と関係全般。</p> <p>祖父母：生きてるのは誰か、母親側との接触と関係全般、父親側との接触と関係全般。</p> <p>第2波：18-23歳の対象の子ども</p> <p>生活状況と経歴：現在の居住状況、婚姻区分、世帯人の名前、性別、年齢、婚姻区分、回答者との関係、親の経歴—実父母と6ヶ月以上離れたことがあるか、4ヶ月以上一人暮らしをしたか、親と住んでいない場合それはどうか。</p> <p>婚姻歴：結婚回数と年賀び、はじめと現在の配偶者、配偶者との結婚前の同棲の状況。</p> <p>教育：高等学校卒業か、卒業の予定（12ヶ月以内）、予定している教育達成、成績、高校卒業後の教育、成績、学位と資格とその年</p> <p>交際状況：30日間でのデートの回数、過去12ヶ月でつきあっていた人の数、決まった相手がいるか、結婚の予定</p> <p>妊娠出産について：子ども数と各生年月日、誰と住んでいるか、妊娠しているか、子ども欲しいか、初めて子どもをもつとしたらどのくらいうれしいと思うか。</p> <p>母親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響</p> <p>年齢、宗教、経済的事項：生年月日、宗教、就学の費用の出所と額、義務である活動、職歴、現在の仕事、達成目標、配偶者の仕事、回答者と配偶者の12ヶ月の収入、貯金、カード等の負債、他の負債。</p> <p>父親との関係：接触の頻度、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面についての感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足しているか、親に話しやすいか、受けた影響、両方の親と一緒に過ごす頻度</p> <p>パートナーとの関係：結婚幸福感、安定性、同棲している人は結婚予定、相手との関係幸福感、安定性。</p> <p>ソーシャルサポート：友達と過ごす余暇時間、何かあった時に相談したりできる人の数（親以外の親戚ふくむ）</p> <p>意識と心理的ウェルビーイング：性役割、親業、離婚、結婚、離業、家族への義務、自尊心、ウェルビーイング全般、学業で達成、キャリア見通し、経済的状况、余暇時間、友達との関係、健康、飲酒、マリワナ使用、飲酒問題、薬物濫用の人と住んだことはあるか。</p> <p>性行動と薬物：性行動、健康、飲酒、マリワナ使用、飲酒問題、薬物濫用の人と住んだことはあるか。</p> <p>継父母との関係：同居したことがあるか、接触、意見の不一致、口論けんか、関係全般、関係の各側面に対する感じ方、子どもの学校、関係、仕事にどのくらい満足か、親に話しやすいか、受ける影響。</p> <p>きょうだい、祖父母、調査の詳細：きょうだい数、関係、母方・父方の祖父母との接触や関係、調査日。</p> <p>第3波：主たる回答者と配偶者に対する調査の内容：第2波とほぼ同様。</p>	<p>1958年3月3-9日に生まれた17000人余りの追跡調査。これまで6回の調査。</p> <p>1965 7歳</p> <p>1999-2000年調査では、14902人目録、11419人が回答。</p>

<p>達・生活イギリス</p>	<p>「全国子どももの成長に関する調査」 イギリス全国/7、11、16、23、33、41-42歳/これまで6回</p>	<p>の関連要因を調べる。 Centre for Longitudinal Studies at the Institute of Education in London</p>	<p>格取得、住宅などについて、調べた。</p>	<p>1969 11歳 1974 16歳 1981 23歳 1985 33歳 1999-2000 41-42歳 (1970 birth cohort study と統合して実施)で実施。</p>	<p>1988 年春に8年生だった人。2段階化確率抽出。全国から高校を1734選り、そのうち1052が参加。815は公立、237は私立。次に学生を選んだ。選ばれた26435人のうち、24599人が回答。1992: 1991-1992年に12年生だった学生の確率サンプルであるために、サンプルが活性化された。1989-90年度に10年生でなかった人も含まれた。1990年と1992年の間に退学した生徒についても確率サンプルした。 1990年: 21,000人の学生が抽出され、親の調査が追加された。 1992年: 学校記録の部分も含む。 1994: 1988年春時点で8年生だった人、1989-1990年度に10年生だった人、1991-1992年に12年生だった人、1994年時点で高校卒業後2年たっていた人。 2000: 1月～9月:</p>
<p>若者教育キャリア</p>	<p>National Education Longitudinal Study, 1988 [ICPSR 9389] First Follow-up (1990) [ICPSR 9859] Second Follow-Up (1992) [ICPSR 6448] Base Year through Third Follow-up, 1988-1994 [ICPSR 6961] Base Year Through Fourth Follow-Up, 1988-2000 [ICPSR 3955] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03955.xml</p>	<p>初等教育機関を出て、高校、大学、キャリアと以降する際の経験をつめる。教育の過程とその結果に関して、政策に関連する情報を集める。早期、後期の退学を早期あるいは後期に予測する、学生の各種プログラムへのアクセス、機会の平等性等を把握する。1988年の8年生を2年ごとに追っていく。(1980年の調査との比較によって、高校生の変化を捉えることもできる。)</p>	<p>・1988-1989年度: 親フアイル: 教育達成や参加を決めると思われる背景に関する情報(家族背景、社会経済的状況、家の教育システムの特徴) 学校: 1988年冬と春に、調査に参加した生徒の通う学校についての情報。 成績、試験のしくみ、学校文化、学業的雰囲気、プログラムや設備、親との関係と参加、教員や職員の性質、 学生: 学校の勉強、目標、人間関係、読解、数学、理科、社会などの教科の基本的な達成。 教員: 生徒の性質、クラスでの様子、カリキュラムや授業、教員の人口学的属性、他の教員、生徒、親との関係、 ・1990年調査(1990.1-7, 1991.1-6) 生徒調査: 家庭と学校の環境、授業や課外活動への参加、現在の仕事、学生としての目標、将来目標、自分についての意見。 10年生時の達成、1988年からの進歩(数学、理科、社会、読解)。 学校: 教育環境。前回と同じ。 退学関連: 出席、退学の要因、自己認識と態度、仕事の経歴、学校スタッフ、仲間、家族との関係。 教員: 生徒の評価、生徒の性質、クラスでの様子、カリキュラムや授業について、教員の人口学的属性、他の教員、生徒、親</p>	<p>1988: 24599, 1990: 20,706, 1992: 21,188, 1994: 14915, 2000: 12144</p>	

	<p>との関係、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1992年調査(1992.1-7, 1993.1-6) : 生徒調査 : 1990年のものに加え、高等学校やそれ以後の学校に行くいは働くにあたり、家族がどのように決定をしたかもたずねる。 学校 : 前回と同様。 教員 : 特に数学と科学について 退学関連 : 前回と同様。 親 : 前回と同様。 ・1994年調査 (1994.2-8) : 高等教育への参加、就労、収入、家族形成、その他成人期に入ることに関連する活動や経験について。 ・2000年調査 : 8年生ベースライン調査から12年後の達成について調べる。ほとんどが、高校卒業後8年たっており、その後の教育も完了し、転職したり家族をもつたりしていた人もいる。 	<p>1988年春時点で8年生だった人、1989-1990年度に10年生だった人、1991-1992年に12年生だった人、1994年時点で高校卒業後2年たっていた人、2000年時点で高卒以降8年たっている人。</p> <p>1994年に参加した15,964人のうち15,237人。無回答だった647人は、フレームから削除。</p> <p>調査終了後、2回目調査の無回答者から、抽出した再調査を実施。このサブサンプルには4回目の無回答者で、ネイティブアメリカ人、アラスカネイティブ、ヒスパニックでないアフロアメリカン、ヒスパニック、退学した人から選んだ386人を含む。</p>
健康	<p>National Health Interview Survey, 1994: Second Supplement on Aging [ICPSR 2563] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02563.xml</p> <p>SOA II 「1994年全国健康に関する面接調査(高齢化に関する補足的調査)」</p> <p>National Health Interview Survey, 1994: Second Longitudinal Study on Aging, Wave 2, 1997 [ICPSR 3526] LSOA II http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02563.xml</p>	<p>LSOA IIは、医療統計センターと老年研究所の協力によって実施。SOA IIはベースライン。</p> <p>1994年全国健康に関する面接調査の調査(ICPSR 6724)、1994年同調査家族資源補足的調査(ICPSR 2656)、1994年同調査障害に関する調査(ICPSR 2539)、SOA II ベースライン面接(ICPSR 2563)を含む。</p> <p>第2、3波では、移動、回復施設の利用、栄養、インフルエンザ予防接種、マンモグラム、前立腺やこれストロール検査、ビタミン剤使用、鎮痛剤、カルシウムサプリメント、抗酸剤の使用など。家の医療ケアの使用。サンプルの1/4が無作為に、子どものころの健康と家族の寿命についての調査に回答。子孫ファイルでは、第3波の時点で死亡していた対象者について、家</p>
8		<p>50州とDCの施設に入っていない市民。</p> <p>1994年全国健康に関する調査のコア調査に参加した70歳以上。</p> <p>コア調査では、層化多段階確率抽出。生存者ファイルは、9447人。</p> <p>LSOA II 2波は、7998人。</p> <p>7060人生存者と938人子孫。</p> <p>LSOA II 第3波は、7,936人生存者と子孫906人。</p>
6		